

2011 年 2 月 28 日/DNP 五反田ビル 1 階セミナーホール
「出版が変わる 学びが変わる -大学教育改革と電子出版のクロスロードに立つ図書館-」
参加者 アンケート 集計結果

当日参加者数：144 名

アンケート提出数：33 件

1. 本日のシンポジウムで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・ Moodle を活用して効率的な授業が、既に行うことが可能であることを新たに知りました。
- ・ 電子書籍による授業、教育の可能性（コンテンツ再利用の可能性）
- ・ 出版社の方々の考えていることや進もうとする方向がよくわかりました。教員が図書館や出版社にどんなことを求めているかも垣間見えたと思います。
- ・ Moodle は使ってみたいと思いました。
- ・ 国立系の動きはすごい。今どきの学生がうらやましいです。図書館の中に入ると分かりにくい部分について知ることができた。
- ・ 千葉大アカデミック・リンクの理解が進みました。ありがとうございました。
- ・ 国内の学術出版社等が電子化に対して、どのように対応しているのか、あるいはしようとしているのか、またそれに対する考えが分かった。もちろんアカデミック・リンクのこと、今後の計画も分かりました。
- ・ アカデミック・リンクについて希望は千葉大学様程ではないですが、学習支援をキーワードとして連携する動きが見られるようになり、参考になりました。
- ・ 教育・教育サイドから見たデジタル環境の活用の実情、取り組みの考え方などを知ることができた。また出版会の悩める状況もある程度把握できた。教員と大学図書館との協働、プロジェクトも興味深かった。
- ・ 授業のコンテンツ化や学術書の電子化など新たな取り組みが進められていることを知りました。そしてそれらを統合的に楽手できる場としてのアクティブ・ラーニング・スペースという発想が面白いと思いました。
- ・ e-learning 環境の整備により、単位の実質化、教員、学生双方にとって効率化を図れること。そのような取り組みを行うために、教員に対して、どのようなサポートが必要なのかを理解することができた。
- ・ 検索や同時利用における図書の電子化の有用性。e-learning の可能性と展望。紙媒体の限界と電子書籍導入の難は、双方の弱点。千葉大図書館の構想計画
- ・ 教員と職員が連携しておられ、組織的に進められていると感じました。
- ・ 千葉大学図書館は日頃よく利用するが、このような大きな流れの中で、図書館工事が行われているとは知らなかった。
- ・ 「コンテンツを提供し続ける」という言葉/コンセプトが印象に残りました。
- ・ 千葉大学における学習支援への取り組み概要
- ・ 大学が教育改革とそれに伴う電子化を本格的に進めているということ。
- ・ 電子化の取り組みが進みつつあるが、まだ計画・試験段階であること。コンテンツの長寿命化、細分化は電子時代の特徴。権利関係の整理の大変さ、コスト。
- ・ 人文（児童文学）分野での電子化について聞けて良かった。各々、具体的な内容だったので、興味深かった。
- ・ アカデミック・リンクなど、もともとあるもの（学習）①とものもとあるもの（コンテンツ）②を上手につなげることによって活用していこう、という動きも含めて、現場でおきている/おきようとしている例がきけて良かったです。
- ・ 「単位の実体化」という文科省要請が、e-learning 等、諸々の契機となっていること。またその論理からこういう方法論となったこと。
- ・ 千葉大学さんの取り組み状況について。
- ・ 千葉大学が学内でこのような取組への合意形成を得られていることに驚き、感銘しました。また学外の企業体との連携を進められている現状にも目を見はります。実験的な試みが成果を上げられることを期待いたします。
- ・ 著作権が非常に大きなウェイトを占めているということ。
- ・ 非常に刺激的な充実したシンポジウムでした。教育のあり方が大きくかわろうとしている中で、図書館も変革に適応した改革をおこなわないとほろびると感じました。
- ・ 学習環境の変化が図書館の役割を学生、教師に対して（大きく変化のために）いかに出来るのか、いかにしたらよいのか。（※原文ママ）
- ・ お話をうかがったことで目指しているものが分かりました（パンフレットでは分からなかった部分について）。

1. 本日のシンポジウムで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。(続き)

- ・日頃大学内だけで仕事をしているため、出版社の方の色々なお話を伺え、知見を広げることができた。プレゼンテーションの中でも何度か出てきたが、やはり、ヒト・モノ・カネがある程度揃っている大学だからこそそのアカデミック・リンクでしょうか...
- ・学生にとって「わかりやすい」ことが本当によいことなのかという問いは重要に思った。ただこれは、その授業の到達目標との関連で議論すべきことでしょう。
- ・☆人的支援の必要性(混成チームで)誰がやる? 学生を支援する学生の育成・制度。利用面、契約面から共通化してほしい。←コンテンツの粒度や付加価値は、多様化、個別化してほしいが、プラットフォームは←後半のディスカッションで、大日本印刷の長丁氏の話で少しわかりました。興味深かったです。

2. 本日のシンポジウムで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・今後の著者、各大学・出版社の連携
- ・著作権処理+出版社への還元についてなど、細々した、しかし現実クリアしていかなければならないハードルについて。その具体的な対策・手順。
- ・PDの最後で少しありましたが、教育を受ける側の学生の意見がもう少し知りたいと思いました。
- ・電子化を前提とする場合の他者の写真等の権利処理について
- ・学内の連携
- ・高大連携について、具体的には? リメディアル教育との関係は? 私大の大規模授業での対応は?
- ・学術出版社あるいは印刷会社は大学(学生)に向けて、どのような方法(プラットフォーム、契約など)で提供としているのかについて詳しく聞きたかったです。
- ・アカデミック・リンクにおける運用のための組織構成はどうなりますか。
- ・アカデミック・リンクがこの先進んでいけば、場としての大学の必要性を考えていかなければならないと思いました。大学に来なくても十分に学習できるような環境になっていくのでしょうか。
- ・学生にどこまで「便利」を提供するか。近年の「就活」で、求められる新卒像が「自ら課題を解決する」「コミュニケーション」と言われているが、学生が能動的に動く機械としての「不便さ」(単に学生がもっと意欲的になれば良いのだが)
- ・今回の大学改革は教員、関係者、法人などから多くの意見と協力を得て実行を勧めているのはわかるが、学生の意見を積極的に取り入れる動きはあるのだろうか? 実際に千葉大で学ぶ学生に広くもっと周知すべきではないだろうか?
- ・DNPのプロジェクトに対しての役割がよくわかりませんでした。
- ・アカデミックリンクは本当の意味で学生のためになるのか。本当に教育効果は上るのか。
- ・「実際はこれから」の事例が多かったので、たとえば「よみがえる事典」ではどのくらいのリソース(人・金額・時間)、できあがったあと、どのくらいの利用が増えたのか(紙vs電子)、e-learning/Ustream 実現に必要なだったリソースと実現後あらたな発見などがわかったら、もっと良かったです。
- ・一般書出版と一般(公共)図書館+学校(教員)図書館の間には、課金、複写などなどの各所で、かなりの緊張が漂います。電子媒体が広がる局面では、さらに幾つかの鏖戦が生じると思われます。…ところが本日の座視=学術書/教科書+大学図書館+教員の間では、そういう話題がほとんどないように見えました。実は??? どう? →さいごだけちょっと違いましたね。
- ・特にありません。
- ・大学教育改革の実際の状況(学生の反応なども)
- ・著作権処理の実務がどう動くのか。実際にはこれがうまくいかないと、話がすすまない。
- ・様々な局面で「誰が」を解決していく必要がありますよね。参考図書と色々な情報を結びつけていく、e-learningにおける演習問題を作成する/選ぶ際にどうやって「質」を担保していくか、協力してもらえるしくみができるか、楽しみです。
- ・権利関係について、もっと詳しいお話を伺いたかった。
- ・電子書籍を個人で出版することが簡単になると思われるので、そのことについて聞きたかった。
- ・NDLの大規模電子化プロジェクトの関連。よみがえる事典プロジェクトのWeb版(電子版)のプラットフォームは何を使うか? →無料公開?たとえばJapan knowledgeなどのプラットフォーム?
- ・共通プラットフォームをどうするのか。ビジネスモデルをどう構築するのか。例:部分利用 etc. 京大(出版会)さんの立命館の例→こういう個別の事例を個別でやっていくのは、テスト的にはできるでしょうけれど、普及させるのは困難では? →だれがどうマネジメントする? →プロデューサーとは? →新・ポータル研修?

3. 今後もアカデミック・リンクではセミナーやシンポジウムを企画していきます。そこで、取り上げてほしいテーマや講師があれば、お書きください。

- ・大学図書館・研究者の必要とする電子出版・電子書籍のあり方、造り方。（テキスト以外の参考書や研究所について）黒田さん・鈴木さんを中心に。
- ・各国（とくにアメリカ）の電子教科書の現状と展望
- ・オンデマンド出版の詳細。いろいろなモデルが考えられますが、特に高精細な印刷が必要な分野について。上と重なりますが、出版・学びに関わる「ビジネスモデル」
- ・アクティブ・ラーニング・スペースの詳細
- ・ディスカッションの最後に出ました著作権処理について興味があります。また大学図書館の側からみたアカデミック・リンクについてさらに深く聞ければと思います。教員個人による電子出版の可能性についても。
- ・電子化に伴う権利問題
- ・デジタル技術を活用した学習支援と大学図書館のあるべき姿
- ・海外の先進事例
- ・学生がどう利用しているかの、学生視点の話が聞けたらいいと思う。
- ・アカデミック・リンクへの学生の反応（どのようなコンテンツが役にたったのか）
- ・2.で記述した内容にも興味があります。（集計者注：2では「実際はこれから」の事例が多かったので、たとえば「よみがえる事典」ではどのくらいのリソース（人・金額・時間）、できあがったあと、どのくらいの利用が増えたのか（紙 vs 電子）、e-learning/Ustream 実現に必要なだったリソースと実現後あらたな発見などがわかったら、もっと良かったです。」と記載）
- ・コンテンツを利用させる仕組み、すなわち「アクティブ・ラーニング・スペース」の活用の事例を是非紹介いただきたい。
- ・"ラーニングコモンズ"なるものの実態をうき彫りにして欲しい。
- ・今回のように立場の異なる方々のお話がうかがえるのは興味深いです。
- ・電子コンテンツを活用した授業実践の報告、ケーススタディ的に、事例を紹介していくことが普及に重要と思います。
- ・竹内先生の「研究開発の方向性」のスライドより。コンテンツの提供環境の実現、見える姿について、これまでの概念でいうと リアル ラーニングコモンズ？ →こちらは竹内先生の説明で理解できた。バーチャルポータルサイト？→どうデザインするか。（有料、OA、教材、アクセス権的にも）。図書館的観点？シラバスの観点？→授業ナビ

4. 本日のシンポジウムの内容、電子出版、大学教育の情報化などについて、自由にご意見をお書きください。

- ・関係者の皆様、大変お疲れ様でした。非常に勉強になりました。次回も是非参加させていただきます。
- ・とてもタイムリーで興味深い内容をありがとうございました。FD/SD がどれだけ実効性があるか、少し疑問に思っているのもその点の検証もどこかでできるとよいかもしれません。（筑波でもアクティブラーニングはかけ声ばかりで）
- ・電子化は文系でも歓迎してます。図書館の役割をじっくり考えたいです。手とり足とり教えるのが良いとは限らない ー想像力の欠如（だけど）サポート体制が大事だと思います。
- ・「学生にわかりやすくする」のコメントには同意。高等教育の根幹であると思います。大学教育の情報化と評価をどう考えるか。
- ・ここで提示された環境がすべて提供されたならば、必要なのは、それを使う人間の能力開発です。その意味でFD/SD は大変重要だと考えます。
- ・出版社の既得権を期せずして分かり、興味深かった。
- ・学び方や教材の変化に対し、具体的な事例への解決策にとどまらず、他ケースへの展開も視野に入れて取り組まれていることがすばらしいと思いました。大変だと思いますが、ぜひ進めていただきたいです。成果や進捗を伺うのを楽しみにしています。
- ・学生が主体的に利用できるコンテンツを進めてほしいと思います。教員の皆さんと対等とまで行かなくても、受け身だけでない学生の参加も望める体制があると能動的な学びが活発化すると思います。千葉大学はもっと図書館の周知をすると良いと思う。今日初めて中身を知りました

4. 本日のシンポジウムの内容、電子出版、大学教育の情報化などについて、自由にご意見をお書きください。(続き)

- ・出版社もそうですが、図書館も教員も変わらなければいけないと感じました。変化するための大学の体力も問われていると思います。
- ・次回開催する際は質疑応答の時間を長くすべきではないだろうか？今回のシンポジウムは学生にも参加を告知すべきではなかっただろうか？
- ・組織のあり方、人材によって、大学間格差がどんどん広がると改めて思いました。千葉大はやはりピカ一です。
- ・アカデミック・リンクの進捗に関する定期報告会、あるいは意見交換会の開催
- ・電子化の最も大きな課題は権利処理である。収益モデルも構築できなければ、本格的には動き出せない。
- ・千葉大学様の中でも幅広い立場の方が参加され、学外者の方も多く意見があり、単純の電子化の話に終始せず、興味深かった。どの大学に入学するかによって、学生の将来は（そこそこ）変わるだろうと思った。
- ・聴講する機会をいただきまして誠にありがとうございました。大変勉強になりました。
- ・「学生といっても習熟度、意識、その後の進路、レベル、分野など様ではない」ということを前提とすると…「学習とコンテンツの場を近くすれば、それはどの層にも有効か」ということが気になります。※換言すれば「さがす苦労をなくしてあげる」ことで創造的な学生が生み出されるのか…ということです。この仮説が、どの部分で最適で、どの部分で向かない…というような。→あ、さいごに千葉大の先生が少しふれてましたね。…近い話を。
- ・学生さんが前向きで感心しました。情報があふれる中、質の良い情報をタイムリーに与えられ、また自分で選択できる力を与えられる教育が求められていくと思います。
- ・"遊び"や"デザイン"の世界では、早くに電子化した教科書と教え方が大きく変わるのではないかと。やはり、教え方、プレゼンテーション、編集方法、出版流通に対する影響は大きい。
- ・京都大学出版会、東京大学出版会のお話も聞けてよかったです。夏にスタートするとご紹介のあった著作権管理サービスに関心をもちました。
- ・図書資料をこえた映像、音声資料のコンテンツ化、権利処理は非常に重要と思いました。図書館のもつ資産の有効活用の点から、取り組んでもらいたいです。(図書館がビデオでもっている教育用のドキュメンタリーやニュース資料など、まさにレガシーコンテンツと思います。)
- ・事例報告とプロジェクト計画が、教員の方、図書館員がペアで登場され、連携して取り組まれているのがよくわかりました。素晴らしいと思います。解決すべき問題は多々ありますが、実際の取組によって上がる成果を楽しみにしております。最後のほうの、出版者の方の話題と、学生さんとメディアセンターの先生と土屋先生のやりとりがとても面白かった。「考える学生の育成」のあるべき論も面白そうですね。

千葉大学 アカデミック・リンクでは、今後、セミナーの開催や関連する情報の提供を計画しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。

※22 名が継続的な情報提供を希望

以上

2011 年 2 月 28 日/DNP 五反田ビル 1 階セミナーホール
「出版が変わる 学びが変わる -大学教育改革と電子出版のクロスロードに立つ図書館-」
参加者 アンケート

千葉大学アカデミック・リンクでは、今回のシンポジウムをスタートにして、大日本印刷株式会社をはじめとする皆様とともに、デジタル時代における大学の学習教育環境の改革に取り組んでいきます。
今後の活動のために、本日のシンポジウムに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。

1. 本日のシンポジウムで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

2. 本日のシンポジウムで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

3. 今後もアカデミック・リンクではセミナーやシンポジウムを企画していきます。そこで、取り上げてほしいテーマや講師があれば、お書きください。

4. 本日のシンポジウムの内容、電子出版、大学教育の情報化などについて、自由にご意見をお書きください。

千葉大学 アカデミック・リンクでは、今後、セミナーの開催や関連する情報の提供を計画しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。

お名前 ()

ご所属 ()

電子メールアドレス ☐ 申込時に申請したもの ☐ それ以外 ()

ご協力ありがとうございました。